

第52回指導と評価大学講座(7.30 70分)を一足先に!
2010年前期 曾山勉強会 第3回

教室でできる特別支援教育

名城大学 曾山和彦

2010.5.8

実践知を学ぶ・真似る

- 巡回訪問等を通して、「他校に伝えたい」と感じる研究・実践に出会う。

・授業づくり(A小学校、B高校)
・人間関係づくり(C小学校、D中学校)

各校の研究・実践を参考に、各地域の実状、児童生徒の状況に応じた微調整を加えることで、新たな実践知が生まれる。

2

A 小学校の実践

「どの子どもでもできる授業づくり 三つの原則」

- 授業規律の定着
- リズムとテンポ
- 1指示1動作

ユニバーサル; 普遍的

個への支援が全体の支援につながる

気になる子ども含む30名弱の子どもたちが45分集中して学ぶ姿に、「ああ、これが知識生活黄金時代ということか」と感動。担任の先生が練りに練った「作戦」に、子どもたちが心地よく乗っている、そんな印象を受けた。
(小1授業参観時の、私の観察記録)

3

B 高校の実践

「ユニバーサルデザインによる授業づくり」

- 教室環境づくり; 掲示物は四カ所留め、等
- 授業づくり; 教科書、問題集のどこをやっているのかを板書提示、等

ユニバーサル; 普遍的
個への支援が全体の支援につながる

「落ち着きのない生徒が静かにノート記入するようになった」、「授業への取り組み姿勢に意欲が感じられるようになった」等(教師による行動観察記述)

4

C 小学校の実践

「人づきあいのコツを学ぶSSTタイム」

- 全学年が年間を通じて、毎週金曜の朝の短学活15分を使い、SSTに取り組む。

ソーシャルスキル・トレーニング(対人関係のコツを教える)してみせて 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は育たず

SSTタイム継続により、授業中の子ども同士のかかわり方もとてもよくなった。自分の考えに固執せず、柔軟な考えをもつ子どもが増えてきた。(教師による行動観察記述)

5

D 中学校の実践

「全ての学級が取り組むアサーションワーク」

- テーマは「上手な断り方」

アサーション
自己尊重のコミュニケーションスタイル
さわやかな自己主張

気になる生徒も含め、全学級の生徒がグループワークやロールプレイに取り組む姿に驚いた。最後に、校長先生から頼もしい発言もあり。「国語・数学の力は秋田にも負けません!」(参観時の、私の観察記録)

6

演習;「私のお願い聞いて」(基本)

- A お願ひする
- B 理由をつけて、一度断る
- A 再度お願ひする(理由をクリアする代案で)
- B 了承する
- A ありがとう、助かった等

よりよい実践に向け、はじめの一步 ~ 気になる子を理解する ~

- 発達障害について学び、理解することは不可欠。家庭環境に関する状況理解も不可欠。

< 常に心の中で繰り返してきた「二つの言葉」 >
 ・うまく指導してもらえなくてもいい。でも、子どものことは理解してほしい。(ある保護者)

・教師は専門家である。教育を行う者が、教育を行う子どもについて無知のまま教壇に立つことは、子どもに失礼極まりない。(杉山・2005)

せめて、D. ウィリアムズ等の自伝を読んでほしい ⁸

何故、障害理解が大切なのか 1

~ 文部科学省調査結果(2002)より ~

明らかな知的遅れがないにもかかわらず、学習や行動面で著しい困難を示す児童生徒は小・中学校の通常学級に6.3%在籍する

通常学級担任への質問紙調査結果。質問項目は、LD、ADHD、高機能自閉症に観察される典型的特徴から構成。教師が必ず出会う児童生徒である。

9

何故、障害理解が大切なのか 2

~ ある少年事件から(「僕はパパを」) ~

- 少年は精神鑑定で「広汎性発達障害(PDD)」を指摘されている。
- 広汎性発達障害(PDD)の人は、言葉の意味をそのまま受け取ってしまうことがある(字義性)。

障害が問題や事件を起こすのではなく、周囲の理解・対応の不十分さが問題や事件の呼び水になりやすい

10

よりよい実践に向け、次の一步 ~ 学級集団の状態を理解する ~

- 学習規律(ルール)が定着している学級には「安心」が生まれ、その安心をベースに、集団内に「ふれあい(リレーション)」が生まれる。「安心・ふれあい」のある学級は児童生徒の居場所となり、満足度の高い学級である。

Q-U(河村, 1999)の「学級満足度尺度」は、ルールとリレーションの2軸で児童生徒の学級満足度を測定する尺度。

A、C小(Q-U導入)の学級満足度は、全国平均よりも高い。気になる子が自然に学級に溶け込んでいる。

11

参考資料

アンケートQ-Uとは

- 河村(1994)により開発された診断尺度。
- 学級満足度尺度と学校生活意欲尺度、自由記述からなる。

教師が使える

利点

1. 短時間でできる
2. 気になる子どもを事前に発見できる
3. データ理解に専門性を必要としない
4. 視覚化されている

参考資料

Q-Uの理論的背景

マズローの欲求階層説を理論的背景に置く

教室でできる特別支援教育

～ある教師の声;学級集団を育てる～

ADHDの疑いのある小4男児。
暴言等による他児とのトラブルが頻発

>>>

<1年間の指導を終えた担任の声>
学級全体へのSST実施、「ルールブック(R. クラーク著)」活用等により、**周りの子どもを育てたら、対象児童とのトラブルが減った。**

参考:親野智可等先生の「ハンカチの話」

教室でできる特別支援教育

～担任の構え;個への配慮はするが深入りしない～

担任は全ての児童生徒にとって、「僕(私)の先生」

40人の子と大きな道を歩く

脇道にそれる子どももいる

立ち止まるが、脇道には入らない

いつでも戻れる居場所の確保

「それ方」の程度により校内体制(支援員等)が必要

ハンカチ(学級)を持ち上げる!

一斉指導における 個への配慮(諸準備等)例

学習面	・学習レベルに合わせたプリント準備(2,3学年下げた内容等)
行動面	・時々、立ち歩く程度は目をつむる ・学習、対人ルールを掲示する(ルール違反の時には非言語メッセージを送る)

対象児を馬鹿にする、えこひいきと反発する場合もあるため、学習や行動の「練習」であること等、他児への説明は必要。また、後の対象児保護者トラブルを防ぐため、保護者面談も必要。

「やや深入り」せざるを得ない場合の他児への課題も準備しておく

現代の子ども像と 教室でできる特別支援教育

現代の子どもは、ソーシャルスキル、自尊感情が落ち込んでいるのではないが

気になる子の存在が、以前よりクローズアップされてきたのではないが

気になる子、及び学級集団の状況を理解した上で、次の2点の指導・支援が大切ではないか

1. 人づきあいのコツ(技)を教える
2. 自分に「OK!」と言えるようにする

気になる子どもには、より機会を捉えて

17

ソーシャルスキル&自尊感情を育む

～SST & SGEの活用～

Q-Uの「学級満足度尺度」により、学級集団のルール状態(横軸)とリレーション状態(縦軸)を把握する


ルールが不十分な学級(横型)には「行動の教育」であるSST(ソーシャルスキル・トレーニング)が活用しやすい(「伝え、私のありがとう」等)

リレーションが不十分な学級(縦型)には「感情の教育」であるSGE(構成的グループ・エンカウンター)が活用しやすい(「いいとこ四面鏡」等)

18

ソーシャルスキル&自尊感情を育む ~ 伝わる言葉をかける ~

- 東の横綱; 「いいところ探し」
- 西の横綱; 「対決のアイメッセージ」
- 東の大関; 「リフレーミング」
- 西の大関; 「？」
- プラスα; 「例外探し」



授業、生活場面等における教師の腕の見せどころ

19

伝わる言葉のかけ方; 東の横綱 ~ 「いいところ探し」による言葉かけ ~

呪文のように 「いつでも、どこでも、リソース(資源・財産)、リソース！」(黒沢先生の言葉)

「褒める・勇気づける・認める」をバランスよくかける

< いいところ探しを誤解した! ? >
ある担任の先生と、気になる子への支援を相談していたときのエピソード。
・「A君のいいところはどこですか？」(私)
・「一つもありません」(担任)

ソーシャルスキル&自尊感情に効く

20

「褒める」と「勇気づけ」

褒め過ぎに注意!

褒める; 「は偉い、上手、すごい」など。全て肯定のユーメッセージ。役割上、上から下の者にかける言葉

勇気づけ; 「ありがとう、うれしい、助かった」など。全て肯定のアイメッセージ。役割に関係なく並行にかける言葉

失敗しても自尊心、所属感を失わない態度(byアドラー)

家・教室を「ありがとう」でいっぱいしましょう!

伝わる言葉のかけ方; 西の横綱 ~ 「対決のアイメッセージ」による言葉かけ ~

- 行動** 相手の行動を非難がましくなく描写する
- 影響** 相手の行動が自分に与える影響を伝える
- 感情** その影響が自分に抱かせる感情を伝える

ソーシャルスキルに効く

伝わる言葉のかけ方; 東の大関 ~ 「リフレーミング」による言葉かけ ~

「人生、考え方一つ」(三屋裕子さんの講演から)

1. 人見知り
2. おしゃべり
3. おせっかい

考え方次第で悩みは消える(論理療法 by エリス)

自尊感情に効く

23

伝わる言葉のかけ方; 西の大関 ~ 「？」による言葉かけ ~

子どもの言動が気になったら、いつも「？」をつけて言葉をかけるといいですよ(ある保母さんの言葉)

< 言葉かけの例 >

- ・「あれ～？ 今の言い方は？」
- ・「君と先生の約束は何だった？」
- ・「さん、何かあったの？」

ソーシャルスキルに効く

24

伝わる言葉のかけ方; プラスα ~「例外探し」による言葉かけ~

うまくやれていること(例外)はきっとある!

暴言が多い
(問題)



丁寧な言葉を使う
こともある(例外)

例外の責任追及
なぜ、例外が起きたのかを心に貯めておくことで、
声をかけられる

ソーシャルスキル & 自尊感情に効く

25

参考・引用文献

- 「特別支援教育のための精神・神経医学」、杉山登志郎・原仁、学研
- 「アスペルガー症候群と高機能自閉症 青年期の社会性のために」、杉山登志郎、学研
- 「特別支援教育を進める学校システム」、河村茂雄・高島昌之、図書文化
- 「気になる子への対応術」、会沢信彦・曾山和彦、教育開発研究所
- 「時々、“オコノ心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング」、曾山和彦、明治図書

「学校におけるカウンセリングを考える会」資料
<http://www.pat.hi-ho.ne.jp/soyama>

26

参考資料

通常学級における特別支援教育が進められるための3条件

特別支援教育コーディネーターが機能している

校内委員会が機能している

個別の指導計画の作成 & 機能している

参考資料

発達障害とは; 特徴及び主な障害

- 先天的
- 症状が発達期(乳幼児期に多い)に出現
- 生涯に渡る

基本的には、脳の機能的な問題が原因とされる

精神遅滞; 認知の側面

脳性麻痺、筋ジストロフィーなど; 運動の側面

発達性協調運動障害; 手先の細かな動きの側面

LD、ADHD、高機能PDD等

通常学級で彼ら自身「困っている子どもたち」

参考資料

発達障害者支援法 (2005年4月施行)

□ 支援法における発達障害定義

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害をいう。

これまで教育や福祉の支援対象となっていなかったものに対し、国、地方公共団体の支援責務を明らかにした。また、学校教育における支援、福祉増進を目的とするため、対象はやや狭義になっている。

29

参考資料

LD (学習障害)

聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、の中で、特異な困難がある <教育的LD> disabilities = 困難さ

言語性LD; 言語理解、表出、読み、書きの困難
非言語性LD; 空間、身体像、社会的知覚の困難

チェックポイント〜スキップ、フォークダンス、縄跳びの困難

読み・書き・計算の障害 <医学的LD> disorders = 機能不全

ディスレクシア

30

参考資料

ADHD (注意欠陥 / 多動性障害)

「不注意」、「多動性」、「衝動性」の三つの問題が見られる
セルフコントロールの発達障害

前頭葉の活動が不活発
(ドーパミンなどの神経伝達物質の量、働き!?)

実行機能障害、ワーキングメモリの障害とも言われる

教室で、特に
気になる子ども

↑

活性作用のある刺激剤
メチルフェニデート

リタリン コンサータ(日本初の治療薬)

参考資料

PDD (広汎性発達障害)

- ・三つ組(社会性, コミュニケーション, 想像力)の障害を有する
- ・「自閉症スペクトラム」と同義
- ・以下の5つのPDDがある

- ・自閉性障害 (*この中で知的な遅れを伴わないものを, 「高機能自閉症」という)
- ・レット障害
- ・小児期崩壊性障害
- ・アスペルガー障害
- ・特定不能PDD (*非定型自閉症と同義)

上記の中で, 高機能自閉症, アスペルガー障害, 知的な遅れを伴わない非定型自閉症を「高機能PDD」という

32

参考資料

LDへの基本対応

例: 読みの困難がある場合

- ・教科書を120%に拡大する
- ・文章の文節ごとに区切りをつける
- ・本人に文節ごとに 囲ませる

↑

ゆっくり, 正しく読めるようになった

教科支援の基本; 該当学年より2~3学年下げた内容を! 33

参考資料

ADHDへの基本対応

脳の実行機能に弱さがあるため, 自らの動機付けが困難故に, 報酬(ご褒美)で行動をコントロールすることが基本

改善目標を一つ決め, 達成したらシールやスタンプの報酬等

「パソコン」というリソースで別人のように変わったA児

主な配慮事項

- ・注意や叱責の何倍もの賞讃を
- ・できていること, できそうなことを賞讃する
- ・賞讃, 叱責は直後に明確に
- ・指示は必ず復唱させる
- ・クールダウンの場を設ける

等

34

参考資料

A児への支援例 ~ やくそくカード

パソコンが大好きで, 得意なA児

シールが5枚たまったら, パソコン15分チケットをもらえる

やくそく
名前

- ・朝の歌をみんなと一緒に歌います (シール1枚)
- ・集会に本をもたずに参加します (シール2枚)
- ・教室でみんなと一緒に勉強します (シール2枚)
- ・放送室で先生と一緒に勉強します (シール1枚)

等

参考資料

A児のがんばり表

7月 12月5日~12月9日

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	算数	国語	算数
2	理科	理科	国語	算数	算数
3	算数	体育	道徳	道徳	道徳
4	国語	国語	理科	理科	理科
5	社会	図工	体育	社会	社会
6	国語	国語	国語	国語	国語

シールを
もらおうぞ!

参考資料


A児の自作カード&パスポート

保健室に行きます

職員室に行きます

パスポート

みるばんしょう
4年 年 月 日
男 たんじょう 日 月 日



37


支援事例

本で教えるソーシャルスキル

周囲の児童の行動変容があり、
気になる児童(小4)の暴言も改善

ロン・クラーク著
「みんなのためのルールブック」

人付き合いのコツがイラストを通して楽しく学べる。



参考資料

PDDへの基本対応

視覚的な工夫

一度に一つ

予定の伝達

肯定的表現

文化に寄り添う

39

支援事例

NHKプロフェッショナルより

～自閉症支援・服巻智子～

プロフェッショナルの道具; 白いメモ帳

服巻が必ず鞆に忍ばせているのが、真っ白なメモ帳。
相談内容を聞き取ってイラストにし事実関係を整理する。そしてどうしたら良かったのかを書き添えて、メモを渡す。自閉症の人たちは視覚的な理解・記憶が得意なため、書いて伝えることが大事だという(2007.10.30放送)